

「セーリング競技大会の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を実現する為の実施例(案)を受けた  
**第33回420級全日本選手権大会での対応(案)**

JSAFが展開している「セーリング競技大会の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を実現する為の実施例(案)を受けて大会の共同主催者で運営主体団体の愛知県ヨット連盟は、以下の方針で準備・進行していきます。

これらの方針は環境変化や改善のために、適宜変更される場合があります。

【表記】 黒色文字：「セーリング競技大会再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を実現する為の実施例(案)より引用  
青色文字：第33回420級全日本選手権大会での対応(案)

(1) 情報管理体制

- ・ 感染予防の責任者、定期的な感染予防ミーティング。
- ・ 感染予防の担当者を、大会主催側だけでなく、各部署に1人ずつ用意。
  - 組織委員会、レース委員会、プロテスト委員会、テクニカル委員会の責任者を各委員会の感染予防者に選任します。準備段階、大会期間中とも状況・環境変化があった場合、大会組織委員長が対策/対応ミーティングを開催します。
- ・ 担当者間で協議し、大会会場に合わせた感染防止策をエントリー開始前に策定する。
  - 組織委員会が基本方針を策定・展開すると共に、各委員会の責任者からの意見を集約して、感染防止策を考慮した運用を策定し機材計画に反映します。
- ・ 大会期間中は毎日、各部署のミーティングの中で、担当者と役員の間で感染予防について気付いたことを話し合う時間を作る。
  - 各運営チームのデイリー/デブリーフィングで、感染予防に向けた遵守事項の実施状況を確認項目とします。
- ・ 医療機関への連絡、および情報共有体制の確立。
  - 組織委員会が後援団体である"蒲郡市、蒲郡市教育委員会"と調整し、体制を作りこんでいきます。
- ・ 大会終了後も、2週間は連絡、および情報共有体制を維持すること。
  - RRS 定義 規則 "(g) 大会を管理するその他の文書"と定めた"健康管理に関するガイドライン"7項に、共有体制と参加者の遵守事項を明記しました。

(2) レース運営

- NOR/SIの作成
  - ・ 帆走指示書などの文書はWeb公開を行い各自で入手できるようにする。
    - 関連文書を大会HP web上で公開し各自でダウンロードできる様、設定します。(NOR他は既に完了)
  - ・ 参加関係者への感染防止のための指示事項をNORに記載して、規則化する。
    - NOR 20項「健康管理」に大会の"健康管理に関するガイドライン"に従うことを明記しました。
  - ・ リスク下でのレース実施に対する考えを表明。
    - 大会HPに組織委員会の考え方を掲示します。
  - ・ 事前に大会中止の条件を明示しておくこと。
    - NOR 6.項「大会中止の条件」に大会前での中止の条件を以下のとおり明記しました。
      - ・ 新型コロナウイルス等の感染症蔓延防止対策で、行政機関より大会中止、延期を指示または勧告された場合。
    - NOR 6.項「大会中止の条件」に大会開始後の中止・打ち切りについて以下のとおり明記しました。
      - ・ 大会開始後、参加者が新型コロナウイルス等の感染が判明した場合、参加者全体の安全を確保するために、大会を中止、または打ち切りする場合がある。
  - ・ できるだけ日帰りでの参加なスケジュールとする。
    - 県内参加選手が日帰りで参加が可能となる様、通常のタイム・スケジュールに対して30分後ろずらしで計画しました。
  - ・ 感染防止に関する規則違反への裁量ペナルティーをあらかじめ検討しておく。
    - NOR 20項「健康管理」は NP、DP と規定。具体的な裁量ペナルティはプロテスト委員会と検討中ですが"注意" → "警告" → "得点ペナルティ"の3段階を想定しています。

- エントリー受付
  - ・ 選手が3つの密を作らないように、会場の広さに応じた受入れ艇数設定。
  - 参加想定80艇に対し、大会用艇置場収容可能艇数が286艇分あることより、問題無いと判断しています。船台・ラックを活用して、他チームとの接触を最小限とする緩衝地を確保したバース指定を行います。
  - ・ 入場許可証の発行<IDカード>。
  - 以下の理由により、今大会では採用しません。
    - ① 実施時期から考察すると、関係者以外の来会が想定できない。
    - ② 会場地に十分なスペースがあり、他チームとの接触を最小限とする緩衝地を確保したバース割が実施できる。
    - ③ 出入りチェック時の滞留、列が出来ることによる「密」発生が懸念される。
  - ・ 参加費の受付時現金受け取り禁止、銀行振込等の推奨。
  - NOR5.3項で参加料等の授受は銀行振り込みに指定しています。
  - ・ 大会当日、体調不良の場合の乗員変更を可能とする事の記載<体調不良者の排除>。
  - SIの「乗員の交代と装備の交換」の項に、乗員交代の要件として"事前承認"と"レース委員会を納得させる合理的な理由"を記載予定です。体調不良は"合理的な理由"に該当します。
- 艇などの搬入受入れ/艀装解装
  - ・ ハーバー到着時、船や施設に触るより前、手洗い・手指消毒の履行。
  - 豊田自動織機海陽ヨットハーバーエントランスにポンプ式アルコール消毒液設置と注意喚起文掲示がされています。
  - ・ 準備、片付けを時間差で行うなど、ソーシャルディスタンスの保持。
  - 他チームとの接触を最小限とする緩衝地を確保したバース指定により、ソーシャルディスタンスを保持します。
- 陸上での信号/公式掲示
  - ・ 公式掲示板のオンライン化や掲示内容のメール配布の実施。
  - 大会期間中の全てのNoticeを大会HPに即時掲示します。陸上で発する信号は常時ライブカメラで配信されています。
- 開閉会式/表彰式/スキッパーズミーティング（ブリーフィング）
  - ・ 式の簡素化（行わないことを推奨）またはオンライン化、ビデオメッセージ配信。
  - 今後、日本420協会と調整し対応を検討していきます。
  - ・ スキッパーズミーティングやコーチミーティングは、短時間実施。質問をオンライン受付し、公式掲示にて全選手に公開返答など。
  - NORと同時に大会HPに掲示した、"レース公示に含まれない一般情報"に以下のとおり明記してあります。  
"レース公示及び帆走指示書への質問は、大会webサイトで入手することが出来る書式を用いた事前送付を推奨する。事前送付された質問に対する回答は、大会webサイトに掲示される。"  
これはNOR、SIに対する質問を制限するものではありませんが、選手・指導者のご協力をお願いします。
  - デイリー・ブリーフィングの参加は、原則各チーム1名のコーチ・指導者に限定させていただきます。ソーシャルディスタンスと換気を確保するため、屋外(屋根付き)センタープラザにて実施します。
  - ・ パーティーや交流会、講習会は自粛。特に屋内での実施は行わない。
  - 例年、ウエルカム・パーティーを実施していますが、本大会では状況を鑑みて実施いたしません。
- 出艇帰着申告/成績発表
  - ・ 出艇帰着申告システム、得点照会のWeb活用検討。
  - 出艇帰着申告は"Google フォーム"を活用したweb申告を採用、スマートフォンで申告が可能です。得点照会は Scoring Inquiry を大会HPにアップ、選手が自らダウンロードしwebで提出できる様、設定します。  
※ 但し選手の利便性と選択肢を担保するため、webに限定せず用紙の交付と受領も対応します。
  - ・ 陸上では3つの密を避ける為に通常より多くの時間が必要となる。レース開始終了時刻については、選手・大会関係者に十二分に時間的余裕を与える様な考慮。
  - 豊田自動織機海陽ヨットハーバーの 開門/閉門時間を、大会期間中の特例として拡大予定です。  
→ 開門時間を30分前倒し07:30に、閉門時間は進行状況を見て都度調整します。
  - ・ スロープでの3つの密を避ける為、時間差の出艇や着艇を事前にルール化、同時に海上に居る艇数や種目も制限。
  - 3面、総延長200mあるスロープを有効活用、参加艇数によっては、使用スロープの振り分け指定も検討します。SIで「D旗」が掲揚されるまで、バースからの移動を制限することを規則化し、スロープでの3つの密を回避します。

## ● 海上運営

- ・運営ミーティングのオンライン化、または広い屋外での短時間実施。
- 各委員会の運営ミーティングは、屋外で短時間実施します。
- ・運営艇/サポート艇の出艇数削減(設置マークの削減)。
- 従来よりTrapezoid コース 4マーク艇をスタート・ピンボートで兼用、1艇削減を織込み済みです。
- ・運営艇/サポート艇の乗艇人数制限。艇当たり少人数で運営できるようにフラッグやシグナルの簡素化も検討。
- 従来より運営機材の改善と日常のトレーニングにより、最少人員での運営を行っています。  
→ 通常は、Signal Boat. Finish Vessel は定員3名、Mark Boat は定員2名で運用。  
本大会は想定数が80艇と大きいことより、Signal Boat. Finish Vessel のみ定員4名に増員で計画。
- ・そのためマーク移動やその他の運営に制限が出る場合には、SIにて明記。
- 従来よりTrapezoid コースでの様々なマーク移動にノトラブルで対応しており、問題無しと判断しています。

## (3) 計測

- ・選手には事前にチェックリストを提出させるなど、大会計測の簡略化。
- 大会計測の簡略化に向けて、今後日本420協会と調整し対応を検討していきます。
- ・計測時には室内の換気充分行い、また待機列が作らないなど3つの密への対策実施。
- 3つの密回避に向けて、今後日本420協会と調整し対応を検討していきます。

## (4) プロテスト

### ● ジュリーボート

- ・UMP/ジュリーボートの乗艇人数制限 (2名を推奨/1名での運用は困難)。
- 本大会では2名/1艇、2艇体制で計画しています。
- ・マスク、フェイスガード等の着用。
- 組織委員会が全ての競技役員にフェイスガードを購入して支給する計画です。  
マスクとするかフェイスガードとするかは、TPOにより選択します。
- ・電子ホイッスル使用、またはレース委員会の音響が重ならない音響信号の用意。
- 電子ホイッスルを採用します。

### ● 選手の規則対応への変更<SIへの記載が必要>。

- ・競技者の声かけについて、RRSでは競技者に大きな声をかけることを求めている規則があります。  
このうち規則61.1については下記の変更をすることで声かけの義務を無くします。  
規則61.1 「プロテスト」の声かけを無くし、抗議の意思は「赤色旗の掲揚」で示す。
  - NOR 14項「抗議の要件」で規則61.1を以下のとおり変更します。  
・規則61.1(a)の2番目の文を以下と置き換える。  
「その抗議がレース・エリアで関与したか、または目撃したインシデントに関わる場合、艇は最初の妥当な機会に目立つように"赤色旗"を掲揚しなければならない。」  
参加者は各自の責任で、"赤色旗"を準備して下さい。
  - ・リタイア申告などにおけるハンドサイン。  
規則に規定はありませんが、リタイアの申告などで声かけをしない方法として、ハンドサインを用いることをSIに規定します。
  - 現実的な運用として、「安否確認」、「自力帰港の可否確認」等、声かけを完全に無くすることは困難と考えますが選手に対して強制力の無いやり方を検討していきます。
- ### ● 抗議・救済要求
- ・抗議書、救済の要求を電子データで提出。  
電子データ作成、紙の抗議書の写真撮影などをメールで提出、またはオンラインフォーム(Googleなど)記入による提出など、送付先アドレスの明記。
  - 抗議書・救済要求は、大会HPにエクセルでアップ、選手が自らダウンロードしwebで提出できる様、設定します。  
※ 但し選手の利便性と選択肢を担保するため、webに限定せず用紙の交付と受領も対応します。
  - ・文書BOXの活用。
  - 用紙の交付に対応した文書BOXを設置、選手が接触することなく抗議書を入手出来る様にします。  
受付時間の記録が必要となるため、交付は文書BOX活用、受領はフェイスガードを装着したセクレタリが対応等の運用を検討していきます。

- 審問

- ・ 付則Tの積極的採用の検討。  
「レース後ペナルティー」や「調停ミーティング」により審問数を低減。  
スムーズな呼び出しのため事前に連絡先の把握、調停ミーティングの場所など。
- 本大会では、付則Tを適用します。(NORに記載済、SIへも記載予定)  
連絡先を把握するために、大会受付時に提出が必要なドキュメントに、大会期間中に連絡が取れる監督/コーチの携帯電話、E-mail アドレスの記載欄を設定します。  
ご協力をお願いいたします。
- ・ オンライン審問の実施、または個室とオンライン設備の用意、貸出用モデルシップの準備。  
審問をオンライン(リモート：テレビ会議)実施。  
スマホでも可能なため幅広い年齢層が実施可能であり、部分的にオンライン化も可。  
(ジャッジ3名のうち、1~2名をリモート参加とするなど)  
※スマホなど環境がない人向けに機材や、別途通信環境や部屋などが必要
- webカメラの調達、適切な数のモニター準備、通信環境(現状ではネット環境の100%保証に懸念)、プロテスト/選手の対応力懸念等の課題が大きいため、現時点ではオンライン審問はかなりハードルが高いと考えます。  
本大会では感染防止対策を考慮した、オンサイト審問で検討していきます。
- ・ オンサイト審問の実施(オンライン審問が困難な場合)  
基本的には会場の感染対策にあわせますが、具体的な手法は下記の通りです。  
どうしてもできない場合には、ソーシャルディスタンス確保のための大きな会議室を利用。  
人と人の距離をとり、遮蔽板やビニールシートなどを設置(消防法に注意)。  
モデルシップとホワイトボードを2セット用意し、共有しない(可能であれば)。  
審問ごとに部屋の内部、機材を消毒。  
オブザーバー参加はなし、パネルに入るジャッジ人数も3人までに制限。
- ヒヤリングルームに48㎡の会議室を用意、ジャッジと当事者の距離を十分確保します。  
また入口にファンを設置し、常時室内の換気を行います。
- 審問ごとに部屋の内部、機材の消毒を知見のない一般人が保証することは困難なので、組織委員会以下を感染対策とします。
  - ① ヒヤリングルームに以下を準備します。
    - ・透明の遮蔽版、またはビニールシートを設置。(対応方法は施設職員と調整)
    - ・モデルシップとホワイトボードを2セット。
    - ・使い捨て仕様のうす手タイプのポリエチレン手袋。
  - ② ヒヤリングルームでは、ジャッジと当事者に以下を遵守事項として徹底いたします。
    - ・ジャッジはフェイスシールド、またはマスクとポリエチレン手袋を装着。
    - ・当事者はマスクとポリエチレン手袋を装着。
  - ③ ヒヤリング終了後、机・椅子を除菌スプレーで拭き取りします。
- 本大会ではパネルに入るジャッジは3名で運用します。  
3つの密を回避するためにオブザーバーの参加は制限します。
- ・ アンパイア制フリートレースの実施検討。  
アンパイア制レースによる審問の低減を実現できるが、実施にあたっては、参加艇数に見合ったアンパイアボート、および人員・機材の準備などの用意が必要。※アンパイアボートがカバーできるフリート数に設定ができなければ推奨しない
- 想定2フリート80艇をカバーするアンパイアボートを用意できないため、アンパイア制フリートレースは採用しません。
- ・ 控室について、審問控室やプロテスト委員会の控室の距離を保てる広さの確保とマスク着用。  
プロテスト委員会メンバー間のオンラインミーティング実施。
- 前出の"健康管理に関するガイドライン"で、参加者のマスク等の感染予防策着用を規則化します。  
控室は十分な広さと換気が保証される、運営棟エントランスに設定します。
- プロテストメンバーを含む全ての競技役員は、陸上ではフェイスガードかマスク着用により、飛沫感染を防止します。

(5) 海上での3密回避<レース艇/運営艇/ジュリーボート共通>

- ・海上では乗員同士の接近に注意する。
- 毎朝の運営ブリーフィングで徹底します。
- ・支援(救助/コーチ)艇の出艇制限、および乗艇人数制限。
- NOR 14.3 v)項にて、支援艇の乗員は定員の50%以下に制限します。
- ・可能であれば、マスクの着用。手指消毒(乗艇前とマスクや機材、筆記用具に触れた都度)。  
但し、熱中症対策も必要。
- レース運営に支障が出ないことを前提に、競技役員にはマスクの着用を推奨します。
- ・飲料の飲みまわし禁止、昼食の個人準備(食事前の手洗い)。
- 飲料飲み回しは通常でも行っておりませんが、毎朝の運営ブリーフィングで徹底します。  
競技役員用昼食は個装の業者製弁当を組織委員会が一括購入して支給します。
- ・接触を回避するために、同一艇内での役割分担を固定し、ハンドルやポールなどに複数人が接触しないよう検討。
- 従来より少数メンバーで運営し、同一艇内での役割分担は固定されています。

(6) 陸上での3密回避<着替え、トイレ>

- ・ハーバーでは、可能ならロッカールームを使わず、着替えはポンチョ等を利用し屋外で、雨の場合は屋外の屋根の下か、換気の良い室内などで行うよう工夫する。
- 豊田自動織機海陽ヨットハーバーのロッカー数は、以下のとおりです。

	中央棟	西棟	合計
男性用	198	34	232
女性用	48	34	82
合計	246	68	314

12月下旬の大会時期から考察すると、屋外での着替えは非現実的と考えます。

想定参加者から、占有率は60%以下でロッカールーム内の密集は回避できると考えています。

但し専門家の視点で回避すべきと判断されたら、以下の対策を検討します。(あくまで最終方策として)

- ① 西棟男性用34基を女性用に変更、女性用に中央棟48基+西棟34基+西棟34基の計116基分のスペースを確保して、3つの密を回避した女性用スペースとします。
  - ② 男性用中央棟198基の使用を二部制として、3つの密を回避した男性用スペースとします。
- ・暖くなればホースで体を洗って海水を流し、シャワーは家(または宿)に帰ってから行う。
  - 12月下旬の大会時期から考察すると、屋外で水道水を用いるのは非現実的と考えます。  
専門家の視点でシャワー使用を回避すべきと判断されたら、シャワー使用を禁止します。(あくまで最終方策として)
  - ・着替中にマスクを触ったらその後、昼食前、昼食後にマスクを触った後、手洗いをする。
  - "健康管理に関するガイドライン"を改訂し、推奨事項に織り込みを計画します。
  - ・雨天時の待機場所の確保。
  - 屋外で屋根のあるセンタープラザ(1,300㎡)を、雨天時の待機場所に引き当てします。